



移転は中止し、 築地での再整備を

日本共産党演説会で志位委員長が提案

日本共産党は17日、東京国際フォーラムで演説会を開催。東京中央卸売市場労組委員長の中澤誠氏、元公明党副委員長の二見伸明氏による応援のあいさつの後、志位和夫委員長が演壇に立ち、都政の焦点である豊洲移転問題などについて訴えました。(のの山けん)



東京国策フォーラムで開かれた党演説会

志位委員長は、都議選の最大争点は築地市場の豊洲移転問題だと強調。都民・国民の食にかかわる大問題について、「豊洲市場への早期移転」を最大公約に掲げる自民党、「着実かつ確実な前進に取りかかるべき」と推進の旗を振る公明党の姿勢を批判しました。

都民への2つの約束は果たされず

続いて、08年に豊洲市場予定地から基準値の4万3000倍の発がん物質ベンゼンなどが見つかった際に、東京都が都民に対しておこなった2つの約束がどうなったのかという問題を提起。第1の約束、「汚染土壌の除去・浄化」では、都知事が設置した市場問題プロジェクトチームが3月29日、「操業由来の汚染物質は、すべて除去・浄化することはできなかった」と認めたことを紹介しました。



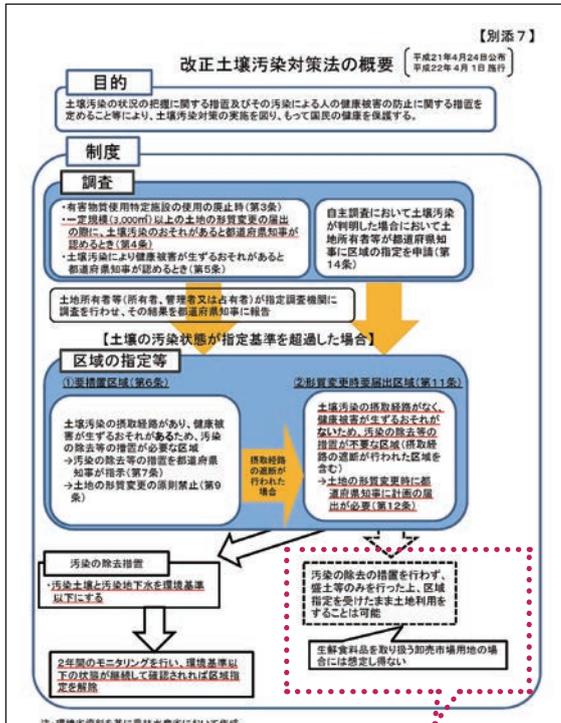
会場いっぱいの参加者を前に演説する志位和夫委員長

第2の約束、「盛り土がされず、地下空間になっっていることが明らかにされた」と報告。都の専門家会議が3月19日に発表した資料は「(地下空間があることによつて)地上部分にも有毒物質が侵入・拡散するリスクを明記しています」と指摘しました。

築地での再整備は十分に可能

志位委員長は、築地再整備は十分に可能であり、市場関係者のみなさんの合意を得ながら、この道に本格的に踏み出すべきと強調しました。

卸売市場は「想定し得ない」



農水省が作成した資料「改正土壌汚染対策法の概要」

日本共産党の志位委員長は、17日の演説会で、土壌汚染対策についての政府の見解を紹介しました。

農水省は、土壌汚染対策法の概要に関する資料(2011年3月)で、一般の土地利用の場合には汚染土壌を除去しなくても盛り土などを行って汚染が遮断されれば土地利用ができるが、「新鮮食料品を取り扱う卸売市場用地の場合には想定し得

ない」と明記していません(図参照)。

10日の参議院決算委員会では、日本共産党の吉良よし子議員が山本農水大臣から「東京都が汚染の除去の措置を行わず、盛り土等のみを行った状態で(新鮮食料品を取り扱う)卸売市場の用地とすることについて想定し得ない」という「認識を持っていない」との答弁を引き出し、政府の基本的立場を改めて確認

しました。

農水省が「想定し得ない」とまで言うのは、汚染土壌が残っていれば、盛り土などで遮断しても地震による液状化や建物の老朽化などで汚染が遮断を破って表に出てくる危険性があるからです。その時に新鮮食料品の市場が造られていたら、甚大な被害が生まれ、国民の健康被害にもつながりかねません。

日本共産党
志茂・赤羽後援会

お花見、カラオケを満喫



19日、岩淵橋近くで日本共産党志茂・赤羽後援会がお花見会を開催。まだ残る桜の下で、大いに交流しました。午後には同会のカラオケサークル「カモメ会」の例会に。お楽しみの日となりました。(のの山けん)